

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473700449	事業の開始年月日	平成13年3月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	社会福祉法人 青葉福祉学院		
事業所名	グループホーム 万寿の森		
所在地	(〒225-0004)		
	横浜市青葉区元石川町4323-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	36名
		ユニット数	4ユニット
自己評価作成日	平成27年3月7日	評価結果 市町村受理日	平成27年11月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設の周辺は森や畑に囲まれ、四季折々の風景がみられ、鳥の鳴き声が豊かな自然を感じさせてくれます。暖かで家庭的な雰囲気づくりを心がけ、自由でありのままに生活ができるよう努めています。多種多様なボランティアによるレクリエーションや行事等を企画し楽しみを持って生活していただけるよう努めています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-12-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成27年3月27日	評価機関 評価決定日	平成27年7月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所概要】 この事業所はあざみ野駅からバスで5分、ゆるやかな上り坂を上った場所に立地している。すぐ近くには東急嶮山スポーツガーデンがある。グループホームとしては大変広い敷地内に、4つのユニットがそれぞれ別棟で建てられている。各ユニットはそれぞれ異なるデザインだが、共通して広いスペースで、木のぬくもりが感じられ、リビングには暖炉がありゆったりとした雰囲気が感じられる。 敷地内ではボランティアの協力も得ながら様々な季節の草花を育てている。すぐ裏の畑を借りて野菜を栽培しており、食卓に上ることもある。その奥は山林となっており、バス通りから近いにも関わらず、とても自然が感じられる環境である。</p> <p>【児童・生徒やボランティアとの連携】 中学校の体験学習を受け入れ、小学校の運動会や卒業式に招待を受け参加しているほか、幼稚園とも交流の機会がある。また、散歩や傾聴、庭園、畑の手入れなどのボランティアを受け入れており、消防訓練への参加も得ている。ボランティアによる和太鼓の講習会を事業所で行った際には地域の方の参加も受け入れるなど、交流の機会を積極的に作っている。</p> <p>【重度化への対応】 利用者・家族の要望に応じて、看取り等の対応を可能な限り行っている。具体的な対応については家族及び医師と話し合い、対応方法を書面で確認している。それをもとに看取りの計画書を作成して、一貫した対応をしている。利用者・家族の希望によっては、亡くなった後、他の利用者と共にお見送りをすることもある。</p> <p>【利用者に応じた居室作り】 各居室はそれぞれ広さや形状が異なるが、木を主体に落ち着いた雰囲気となっている。窓には障子戸を利用している方が多い。年代物の家具や調度品、仏壇、位牌、写真や小物など、自宅にあった物が持ち込まれ、それぞれの利用者の生活や好みが感じられる居室作りがされていた。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 万寿の森
ユニット名	さくら棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を職員が目につくところに掲示し共有している。	理念は3月に「正義・敬愛・奉仕」に変更した。朝礼等の機会に個別に職員に伝えている。	理念を更新してから間もないので、今後、職員の理解を促し、理念を実践できるような取り組みを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事や近隣の小学校の行事に参加したりしている。	自治会に加入し、どんど焼きなどの行事に参加している。中学校の体験学習を受け入れているほか、小学校や幼稚園とも交流の機会がある。散歩や傾聴、庭園の手入れなどのボランティアを受け入れている。ボランティアによる和太鼓の講習会を事業所で行った際には、地域の方の参加も受け入れた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修生の受け入れや中学生の職場体験などの受け入れをしている。また講習会を開催し地域の方も参加できるように案内している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進委員会を開催し評価・ご意見を頂いている。サービスに生かせるようにしている。	会議は2ヶ月に1回開催しており、参加メンバーは家族会代表2名、自治会長、民生委員、地域のボランティアグループ、地域包括支援センター職員である。家族から、介護予防のための嚙下体操実施の提案があり、取り入れた事例がある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の方とも密に連絡を取り情報交換している。	市の担当部署には、入居時の一時金など法改正に伴う変更や加算算定等について相談している。地域ケア会議に参加し、地域包括支援センターや他の事業者と情報交換している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は安全のために行っている。 身体拘束は出来る限りしないよう工夫し対応している。	食事時などには原則車椅子からの移乗をする方針で、訪問時にもその対応を確認できた。車いすのベルトを使用している方はケアプランに記載し、家族に説明している。今年度は身体拘束等についての研修を行っていない。各ユニットの玄関は施錠している。	身体拘束についての研修や勉強会を開催し、事業所の対応について定期的に振り返る機会を持つことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待のみならず言葉の虐待も無いよう職員同士で注意し合い気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見人制度を活用していた入居者様があり、職員間で勉強した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様やご家族が納得できるようにし、納得頂けない時には管理者から説明してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からご家族ともコミュニケーションを図り気軽に職員に要望を表せる環境を作っている。	家族会は自主的に運営されており、定例会が2～3ヶ月に1回開催されている。法令改正に伴う料金変更があった時などは、臨時総会が開催され、その場で説明している。家族会からの要望により、職員の顔写真や献立表を事業所内に掲示した事例がある。第三者委員による相談・苦情窓口を設置している。	家族会からは積極的に意見や要望があり、事業所としてもそれらに対応しています。今後も事業所から積極的に情報提供をして、意見を事業所運営に反映させていくことを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意向調査や個人面談をし意見が伝えられるようにしている。	毎月のワーカー会議のほか、年1回意向調査を実施しており、職員が意見を出す機会がある。福祉用具の導入や手すりの設置、建物の補修、トイレの床の色の変更（便を見分けやすくするため）など、職員の提案を反映させた事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備が出来るように努力している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交換研修に参加したり講習会の案内をしている。 同じ講演会を何度か開催し職員全員が参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修に参加している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に生活歴やバックグラウンドを把握し、個々の性格や認知症の度合いなど考慮しながら関わりを持ち関係づくりを築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に密にコミュニケーションをとり関係を築くようにし要望などが言いやすいようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様やご家族との会話の中でニーズを見極め支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物畳など役割を持って頂き共に行うようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	密に連絡を取り情報を共有し共に支えていけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会の受け入れをしたり外出をご家族の許可を得てして頂いている。	民生委員や習い事での友人の訪問があった時は居室等に案内している。馴染みの寿司屋や美容院へ家族と共に行く方もいる。電話の取り次ぎや手紙・年賀状の代書、投函などの支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、橋渡しができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話などで近況を聞き関係を途切れないようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話の中から希望や意向を読み取るように努力している。	入居時には本人の生活歴を家族に記載してもらっている。入居後は、生活の中で聞き取っている。意向等の把握が困難な場合は、日々の表情や様子からくみ取っている。情報は申し送りで共有し、共通の対応が出来るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の生活歴やバックグラウンドをよく読み把握し支援につなげるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルや表情、言動をみて心身状態が読み取れるように努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ワーカー会議や申し送り時に意見を出し合いケアプランにつなげるようにしている。	介護計画は、本人・家族の要望や医療関係者の意見を踏まえ、個別に作成している。計画の実施状況は毎日確認し、モニタリングを毎月行い、それをもとにワーカー会議等で各職員から意見を聞き取り、見直している。今後、居室担当制の導入を検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や連絡帳、受診記録などを記載し職員が情報共有できるようにしている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々柔軟に対応できるように職員同士で考え行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会やボランティアの協力を仰ぎ楽しめるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人・ご家族に決めていただき、かかりつけ医と連絡を取り合い情報を共有できるようにしている。	かかりつけ医の選択は利用者・家族の要望に応じている。眼科や皮膚科など協力医以外の医療機関の受診は原則家族が対応しているが、緊急時や情報共有が必要な場合などは職員が対応することもある。情報は受診記録で家族と共有している。認知症専門医については、川崎記念病院を受診している方がいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診記録や業務日誌に記載し看護師に申し送りできるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来る限り面会に行き主治医・担当看護師から情報収集し関係を築くように努力している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「入居者が重度化した場合の対応に係る指針」というものを作成しご家族と読み合わせながら説明している。	重度化した場合の対応については、利用者・家族に指針を説明し、「重度化対応希望書」で状況ごとの対応方針を確認している。事業所で看取る場合は、家族及び医師と話し合い、対応方法を書面で確認し、それをもとに看取りの計画書を作成して職員にも周知している。利用者・家族の希望によっては、亡くなった後、他の利用者と共にお見送りをすることもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習会や心肺蘇生の講習会を行い参加できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行い消防署・地域の方にも参加して頂いている。	年2回、避難訓練を実施している。今年度は、12月に日中想定、3月に夜間想定で開催した。3月の訓練では消防署の協力を得てAEDの講習を行い、地域の方3名にも誘導係として参加してもらった。備蓄は水及び食料3日分があり、チェックリストを基に入れ替えている。その他に救急箱、カセットコンロ、ペーパー類などを備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で注意し合い気を付けている。	原則、苗字に「さん」付けで利用者と呼んでいるが、その人に応じた呼び方をすることもある。ユニットによっては丁寧な言葉遣いを徹底させている。薬の名称や通院歴等のプライベートな内容は人前で話さないように注意している。今年度は接遇等の研修は行っていない。	適切な接遇やプライバシー保護について、定期的に研修を実施して職員に周知することを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような言葉かけをし働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り個々の希望に添えるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを把握しおしゃれできるようにともに行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や味見などに参加して頂き共に行うようにしている。	献立と食材の配達外部業者に委託している。昼食は、メニューに地域の青果店で購入した生の果物を加えている。利用者はもやしのひげ取りや下ごしらえ、味見などを行っている。職員は同席して同じものを食べながら利用者を介助している。家族交流会やイベント時には食材配達を止め、寿司を注文したり家族とピザを作ったりして楽しめるように工夫している。裏の畑でふきのとうやじゃがいもなどを育て、収穫して食卓に上る事もある	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録し、必要に応じて刻みやとろみなどの対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛け・介助を行っている。 定期的に歯科衛生士による口腔ケアを受けていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し声掛け・誘導している。	排泄チェック表で個別に24時間の排泄パターンを記録している。食事の前後など時間を決めて誘導している。退院時におむつを利用していた方について、リハビリパンツで様子を見ながら自立支援を進め、布のパンツに移行できた事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールができるように記録をとり、水分量などを調節している。腹部を温めたり、マッサージを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員の都合に合わせてしまうこともあるが出来る限り希望に添えるように努力している。	入浴は原則週2回程度だが、状態や要望に応じて回数を増やしたり、清拭や足浴にすることもある。入浴記録上で、1日おきや、ほぼ毎日の入浴に対応した事例を確認した。入浴を好まない方には、一番風呂を薦めたり、対応する職員を替えたりしている。季節によっては柚子湯にすることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労感が見られたら居室誘導し休んで頂いている。 良く眠れるようにリネン交換や布団干しを細目に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書をファイルしておりいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯たたみ等の役割を持って頂いている。 ご本人の好きなことができるように工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ボランティアやご家族にも協力を仰ぎ戸外へ出られるように努めている。	敷地が広くて緑が多く、日常的に散歩や外気浴をしている。訪問時も、庭に椅子が並べて、各ユニットの利用者が集まり歌を歌っていた。裏には畑があり、ふきのとうやじゃがいもを育てている。初詣に琴平神社に行ったり、車で花見をするなどの外出の機会がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望があれば電話も手紙も取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や季節を感じられる物を飾り居心地よく過ごせるように工夫している。	ユニットごとにレイアウトが異なる。共通する点としては、リゾート施設風で木のぬくもりが感じられ、リビングには暖炉があり、畑や雑木林などが望めてゆったりとした雰囲気がある。また、廊下の途中に腰かけて休めるスペースがあるなど、1人になったり少人数で過ごせるスペースが各所にある。習字などの利用者の作品の他、ボランティアと一緒に作ったひな人形などが飾られ、季節感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓席やソファの席を気の合った型と過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を使用して頂きご家族の写真や思い出の物を飾っていたできるようにしている。	各居室の広さや形状は異なるが、クローゼットや照明が備え付けられている。和風の障子戸を使っている方が多い。各居室には自宅で使っていた家具や調度品、仏壇、位牌、写真や小物が持ち込まれ、それぞれの利用者の生活や好みを感じられる居室作りがされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレにはわかりやすいように張り紙をしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム万寿の森

作成日 27年 10月 23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	I-6	身体拘束について研修・勉強会を行っておらず職員に身体拘束を無くしていくための学びが出来ていない。	身体拘束についての研修・勉強会を実施し職員それぞれに身体拘束を無くするための働きかけができるようにする。	研修・勉強会を実施しケアマネジャーや主任、スタッフで身体拘束を無くするためのプランを立て実施する。	6～10ヶ月
2	IV-36	職員の接遇について研修などを行っておらず言葉遣いなど徹底されていない。	接遇についての研修を行い会議などでも言葉遣いやプライバシー保護について伝えていき徹底する。	研修などを実施し職員同士が注意し高めていけるような環境を作る。	6～10ヶ月
3	I-10	家族会との情報共有・意見交換が十分に行えていない。	家族会と意見交換し情報を共有出来るようにする。	家族会役員会に参加し意見交換・情報共有する。	2～4ヶ月
4	I-1	理念を更新し間もないため職員で浸透できていない。	職員全員が理念を理解し実践できるようにする。	職員が理念を理解できるように伝えていく。	2～6ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。